

Ⅱ 結果の内容

《信州の地酒普及促進・乾杯条例について》

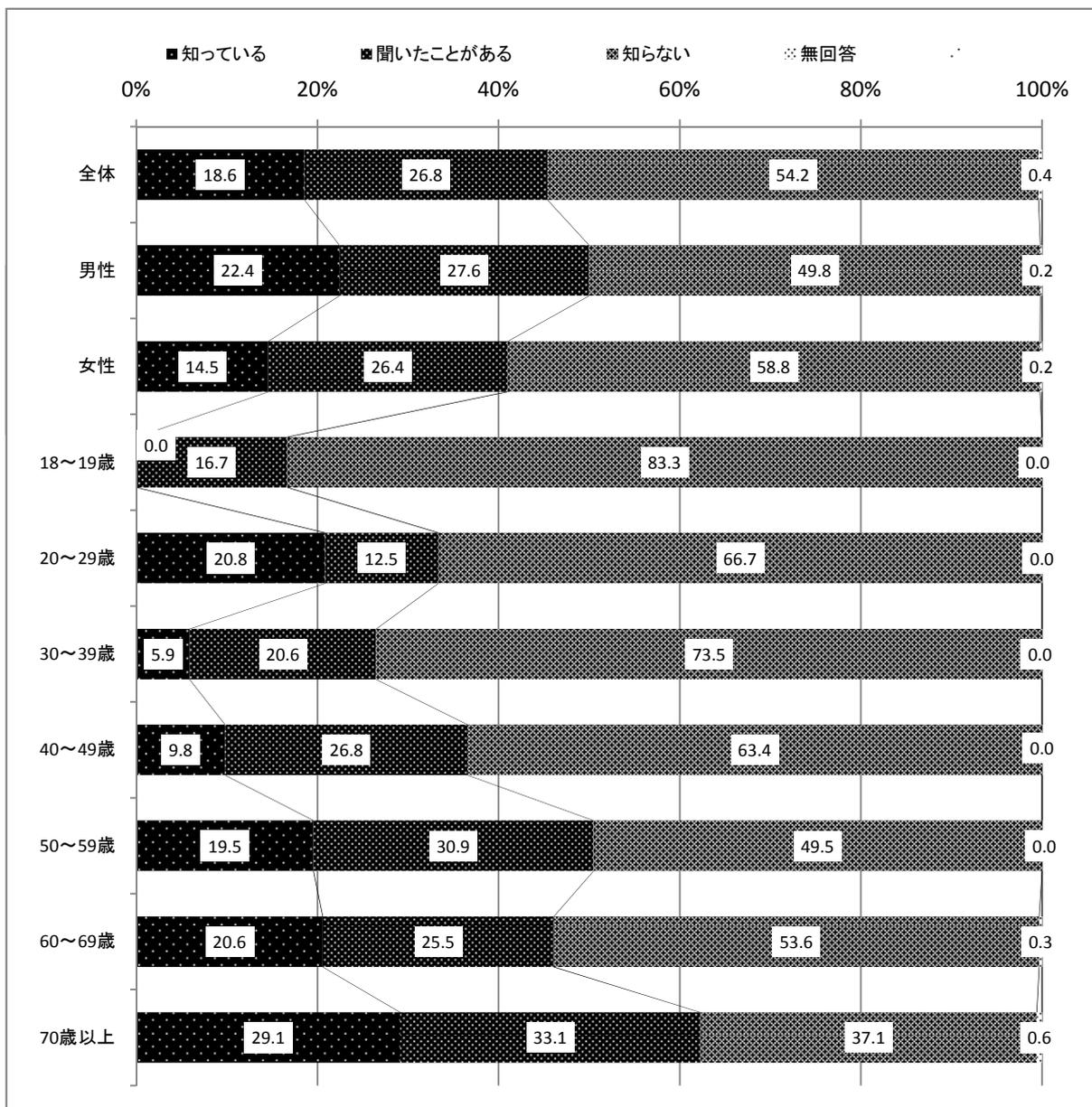
＜信州の地酒普及促進・乾杯条例の認知度＞

「知っている」、「聞いたことがある」が合わせて4割超。「知らない」が5割超

問1 「信州の地酒普及促進・乾杯条例」をご存知ですか。(〇は1つ)

	n= 1,018	回答数 (人)	割合 (%)
知っている		189	18.6
聞いたことがある		273	26.8
知らない		552	54.2
無回答		4	0.4

●認知度は女性よりも男性の方が高くなっている。また、年代が上がるにつれて認知度が高くなっており、「知っている」または「聞いたことがある」という回答は20～29歳では約33%であるのに対し、70歳以上では約62%となっている。



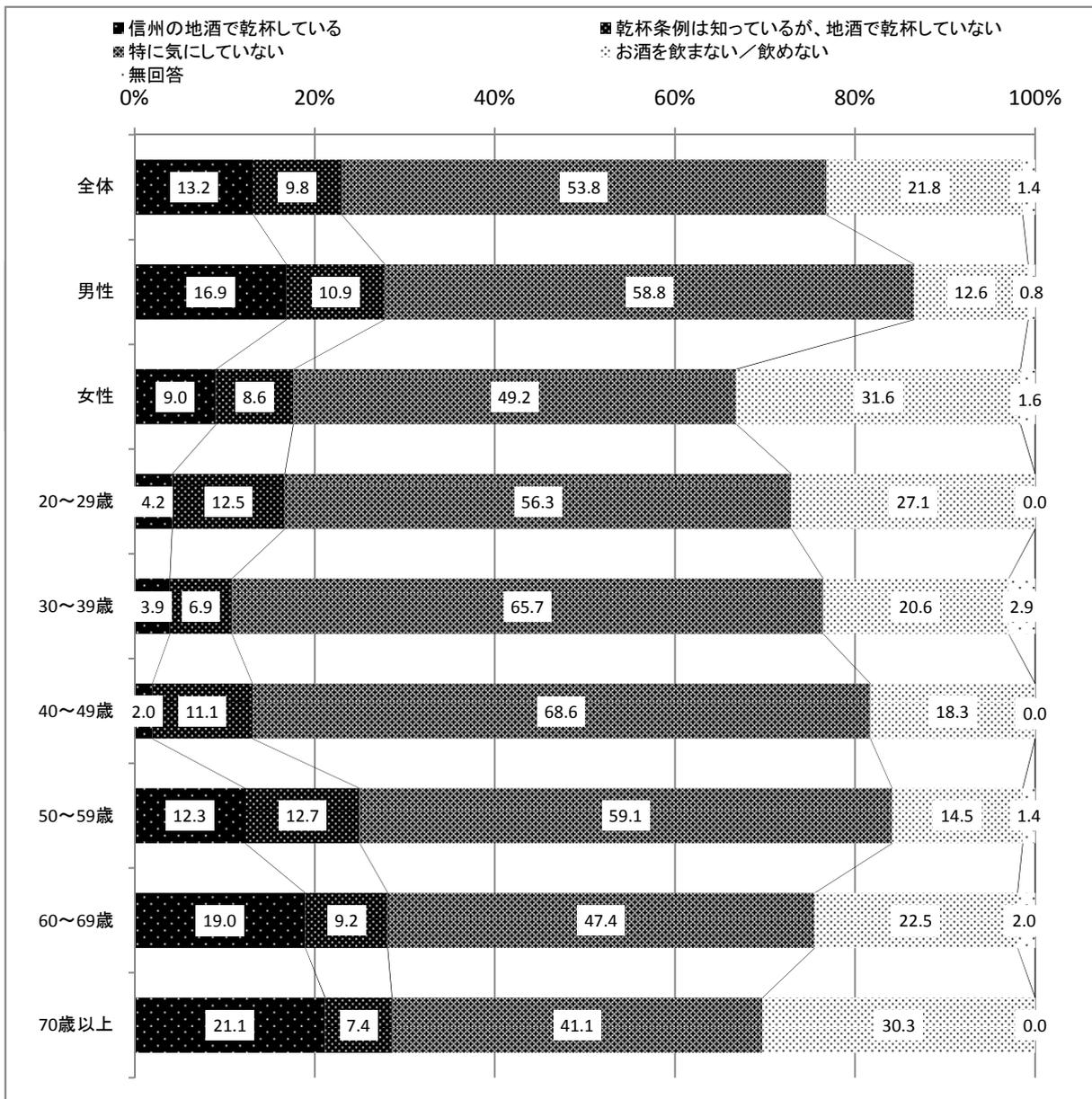
<乾杯での信州の地酒の利用状況>

「乾杯条例は知っているが、地酒で乾杯していない」、「特に気にしていない」が合わせて6割超。「信州の地酒で乾杯している」が1割超。「お酒を飲まない／飲めない」が約2割

問2 宴会等での乾杯は信州の地酒(日本酒、ワイン等)で行っていますか。(〇は1つ)

	n= 1,018	回答数 (人)	割合 (%)
信州の地酒で乾杯している		134	13.2
乾杯条例は知っているが、地酒で乾杯していない		100	9.8
特に気にしていない		548	53.8
お酒を飲まない／飲めない		222	21.8
無回答		14	1.4

●信州の地酒で乾杯している方は、男性の方が多い。また、年代が上がると信州の地酒での乾杯が増えており、20代から40代では2%~4%であるのに対し、60代から70歳以上では約20%となっている。



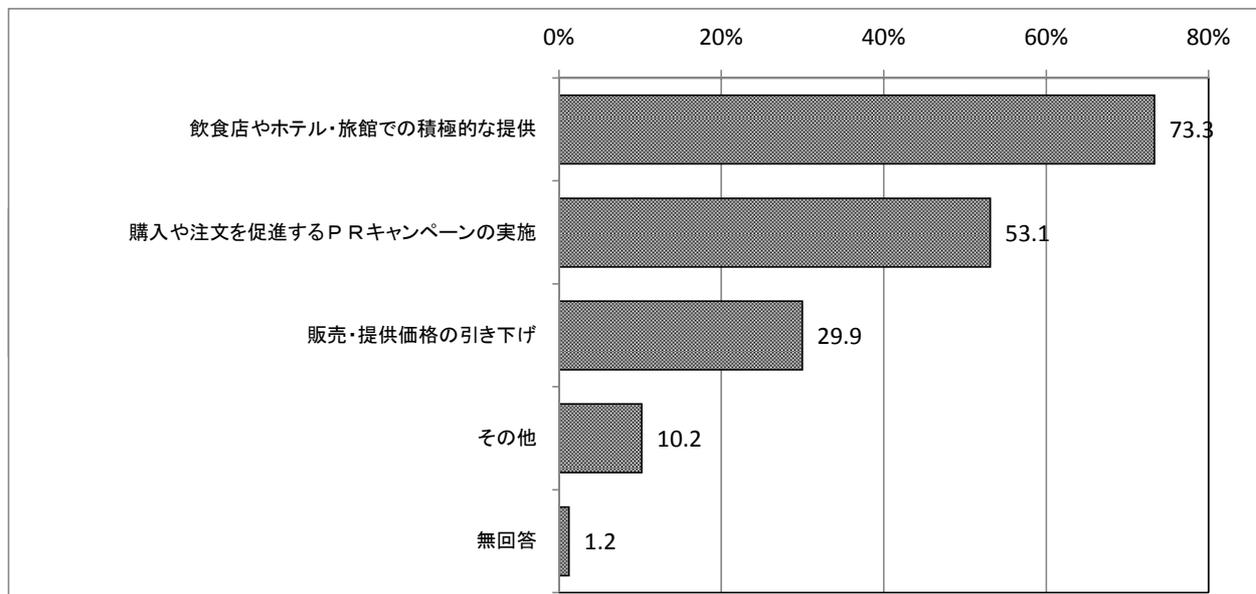
＜信州の地酒での乾杯を普及するための要望＞

「飲食店やホテル・旅館での積極的な提供」が7割超。「購入や注文を促進するPRキャンペーンの実施」が5割超「販売・提供価格の引き下げ」が約3割。「その他」が約1割

問3 問2で「②乾杯条例は知っているが、地酒で乾杯していない」または「③特に気にしていない」を選ばれた方にお伺いします。信州の地酒で乾杯するために、今後、取り組んでほしいことを選んでください。（〇はいくつでも）

	回答数 (人)	割合 (%)
n= 648		
飲食店やホテル・旅館での積極的な提供	475	73.3
購入や注文を促進するPRキャンペーンの実施	344	53.1
販売・提供価格の引き下げ	194	29.9
その他	66	10.2
無回答	8	1.2

● 「飲食店やホテル・旅館での積極的な提供」が73.3%と最も高く、次に「購入や注文を促進するPRキャンペーンの実施」が53.1%、「販売・提供価格の引下げ」29.9%と続いている。



その他としては、「従業員による提案」、「ポスター、チラシの掲示」といった飲酒の場でのPRなどの意見が見られた。

《がんの予防・検診、がん相談支援センターについて》

＜定期的に受診することが望まれるがん検診の受診状況＞

「定期的に受診している」と「定期的ではないが受診している」が合わせて約8割

問4 次の(1)から(5)までのがんについて、がん検診を定期的に通っていますか。(○は1つ)

＜全ての回答者で集計＞

※n=1,018 (4)及び(5)は女性回答のみ(n=488)	(1)胃がん		(2)大腸がん		(3)肺がん		(4)子宮頸がん		(5)乳がん	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
定期的に通っている	517	50.8%	519	51.0%	531	52.2%	201	41.2%	209	42.8%
定期的ではないが受診している	266	26.1%	217	21.3%	178	17.5%	177	36.3%	164	33.6%
受診していない	215	21.1%	264	25.9%	276	27.1%	97	19.9%	105	21.5%
わからない	2	0.2%	2	0.2%	4	0.4%	2	0.4%	2	0.4%
回答なし	18	1.8%	16	1.6%	29	2.8%	11	2.3%	8	1.6%

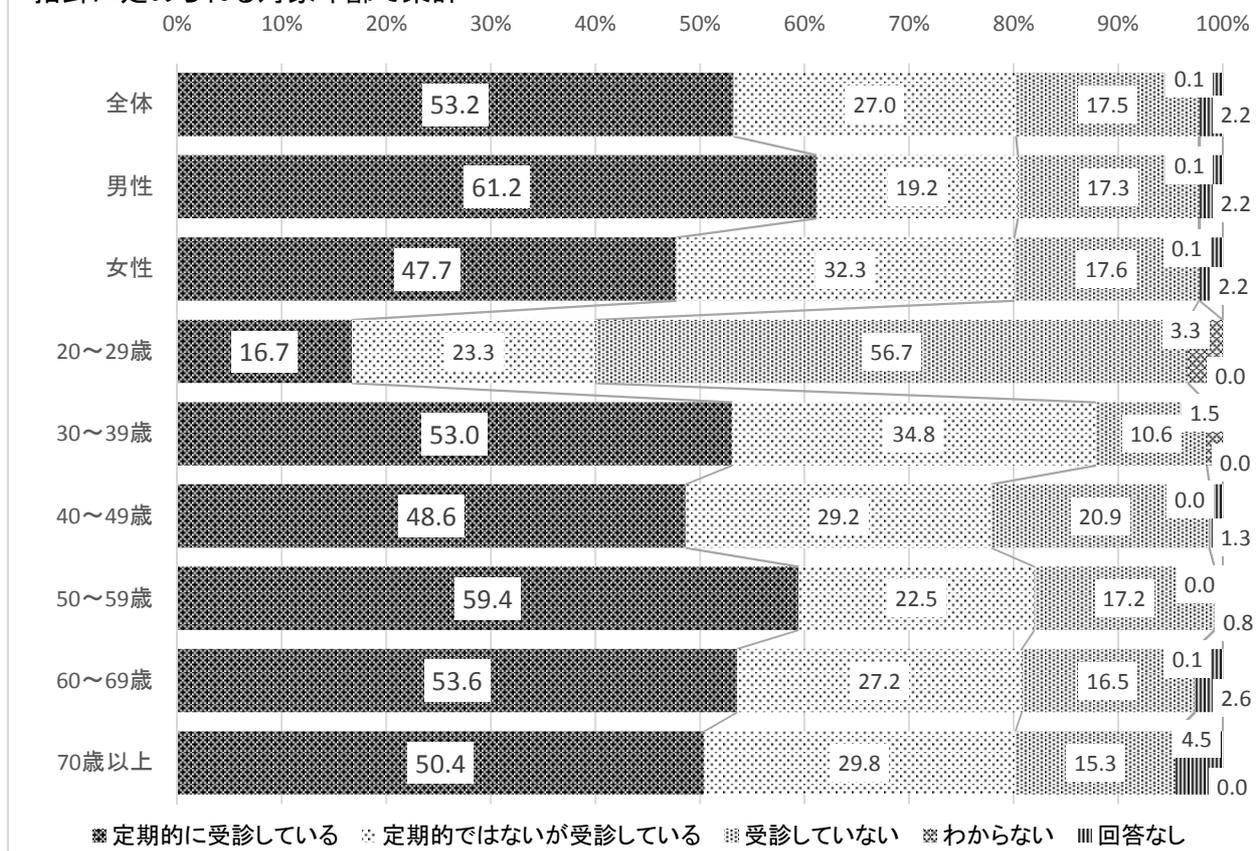
＜指針に定められる対象年齢で集計＞

	(1)胃がん 40歳以上男女 (n=854)		(2)大腸がん 40歳以上男女 (n=854)		(3)肺がん 40歳以上男女 (n=854)		(4)子宮頸がん 20歳以上女性 (n=484)		(5)乳がん 40歳以上女性 (n=388)	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
定期的に通っている	475	55.6%	481	56.3%	486	56.9%	201	41.5%	184	47.4%
定期的ではないが受診している	245	28.7%	194	22.7%	168	19.7%	176	36.4%	144	37.1%
受診していない	118	13.8%	164	19.2%	173	20.3%	94	19.4%	52	13.4%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	2	0.4%	0	0.0%
回答なし	16	1.9%	15	1.8%	26	3.0%	11	2.3%	8	2.1%

※ 国の指針で定められるがん検診の対象年齢: 胃がん検診50歳以上、大腸がん検診・肺がん検診・乳がん検診40歳以上、子宮頸がん検診20歳以上(胃がん検診は対象年齢下限が40歳から50歳に引き上げられて間もないため、今回は40歳以上で集計した。)

- がん検診を「定期的に通っている」と回答した割合は性別では男性の方が高く、年代別では20歳代及び30歳代(女性、子宮頸がん)が低くなっている。

＜指針に定められる対象年齢で集計＞



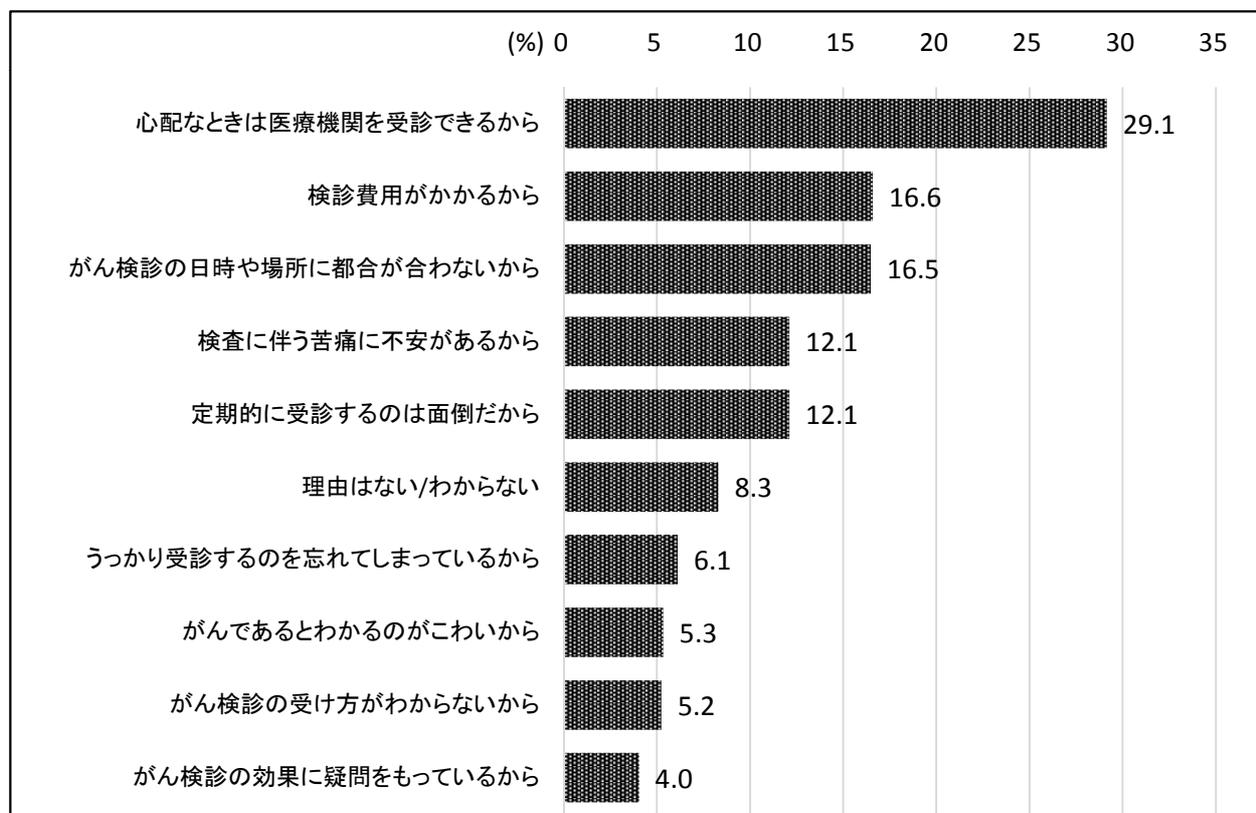
＜がん検診を受けない理由＞

「心配なときは医療機関を受診できるから」が約3割

問5 問4で、1つでも「②定期的ではないが受診したことがある」「③受診したことはない」「④わからない」を選ばれた方にお伺いします。がん検診を定期的に受診しない理由について、あてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	n=916	回答数 (人)	割合 (%)
心配なときは医療機関を受診できるから		267	29.1
検診費用がかかるから		152	16.6
がん検診の日時や場所に都合が合わないから		151	16.5
検査に伴う苦痛に不安があるから		111	12.1
定期的を受診するのは面倒だから		111	12.1
理由はない/わからない		76	8.3
うっかり受診するのを忘れてしまっているから		56	6.1
がんであるとわかるのがこわいから		49	5.3
がん検診の受け方がわからないから		48	5.2
がん検診の効果に疑問をもっているから		37	4.0

●「心配なときは医療機関を受診できるから」が29.1%と最も高く、次に「検診費用がかかるから」が16.6%、「がん検診の日時や場所に都合が合わないから」が16.5%となっている。



<がんの予防方法>

ほぼすべての項目で「心がけている」「知っている」を合わせると9割超、「心がけている」が5割超

問6 がんの予防について、以下のような取組が有効ですが、ご存知ですか。項目ごとにあてはまるものを選んでください(○はそれぞれ1つずつ)

人(割合)

n=1,018	心がけている	知っている	知らない	無回答
たばこは吸わない	525 (51.6)	477 (46.9)	1 (0.1)	15 (1.5)
他人のたばこの煙をできるだけ避ける	563 (55.3)	438 (43.0)	3 (0.3)	14 (1.4)
お酒を飲むときは適量を心がける※1	528 (51.9)	436 (42.8)	19 (1.9)	35 (3.4)
肉と魚をバランス良く食べる	565 (55.5)	397 (39.0)	46 (4.5)	10 (1.0)
塩辛い食品は控えめにする	530 (52.1)	451 (44.3)	25 (2.5)	12 (1.2)
野菜や果物を豊富に(1日350グラム以上)食べる	559 (54.9)	404 (39.7)	47 (4.6)	8 (0.8)
適度に運動する※2	449 (44.1)	525 (51.6)	29 (2.8)	15 (1.5)
適切な体重を維持する※3	527 (51.8)	434 (42.6)	41 (4.0)	16 (1.6)
ウイルスや細菌の感染予防と治療※4	358 (35.2)	462 (45.4)	175 (17.2)	23 (2.3)

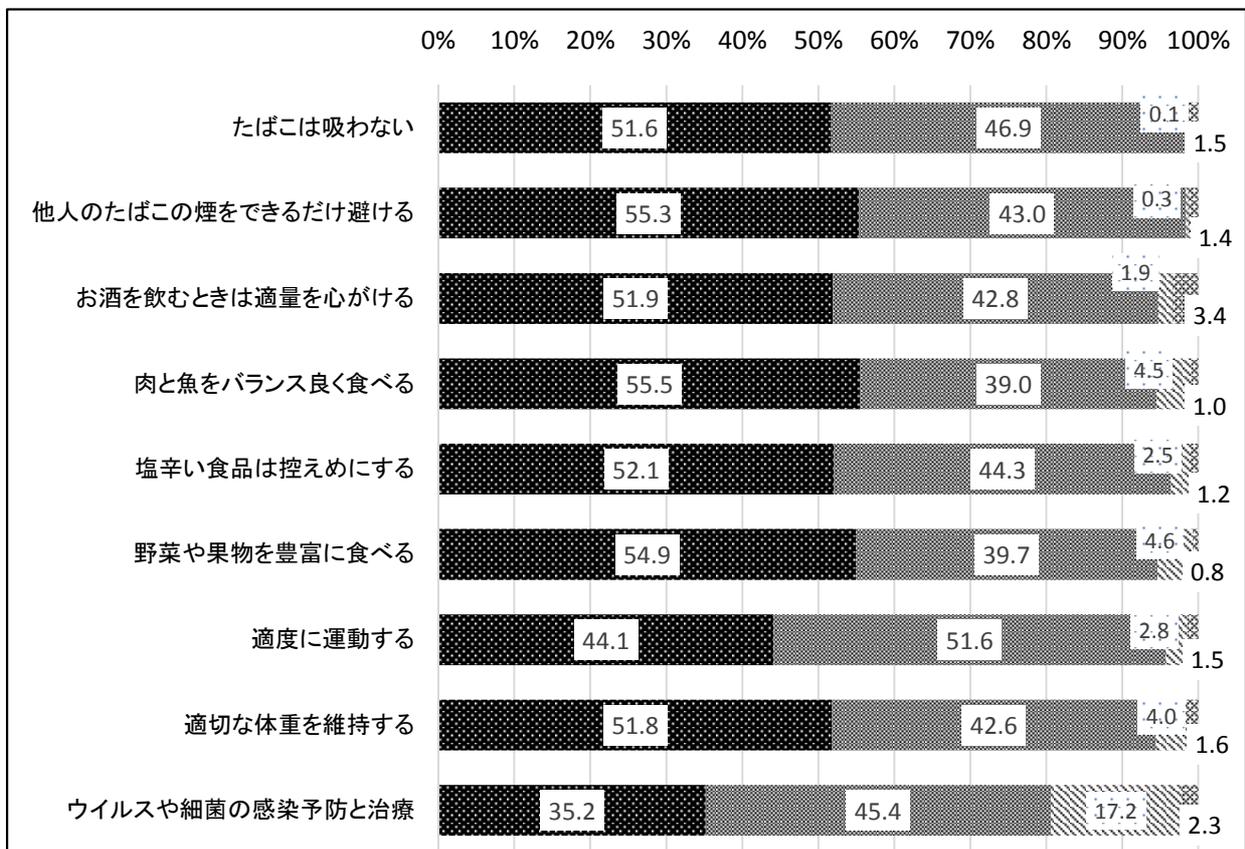
※1 1日の目安として日本酒なら1合、焼酎(25度)なら0.6合、ビールなら大瓶1本、ワインならグラス2杯まで

※2 運動の目安は、歩行などの身体活動を1日60分、また、息がはずみ汗をかく程度の運動を、1週間に60分程度

※3 BMI=体重(kg)÷身長(m)の二乗 35歳以上の目標値は男性21~27未満、女性21~25未満

※4 肝炎ウイルス、ヒトパピローマウイルス、ヘリコバクターピロリ(ピロリ菌)などのウイルス

- 「ウイルスや細菌の感染予防と治療」ががん予防に効果があることについて、「心がけている」「知っている」と答えた割合は他の項目と比べて低く、合わせて80.6%となっている。その他の項目では、「心がけている」「知っている」を合わせると90%を超えるが、「心がけている」の割合は、「適度に運動する」が44.1%と低く、その他は50%超となっている。



＜がん相談支援センターの認知状況＞

がん相談支援センターを「知っている」「聞いたことがある」を合わせた割合は約5割

問7 県内には、がんに関する相談窓口として、がん診療連携拠点病院や地域がん診療病院などに「がん相談支援センター」が設置されています。あなたは「がん相談支援センター」をご存知ですか。(○は1つ)

	回答数 (人)	割合 (%)
n=1,018		
知っている	222	21.8%
聞いたことがある	291	28.6%
知らない	500	49.1%
無回答	5	0.5%

● がん相談支援センターを「知っている」「聞いたことがある」を合わせた割合は50.4%となっている。

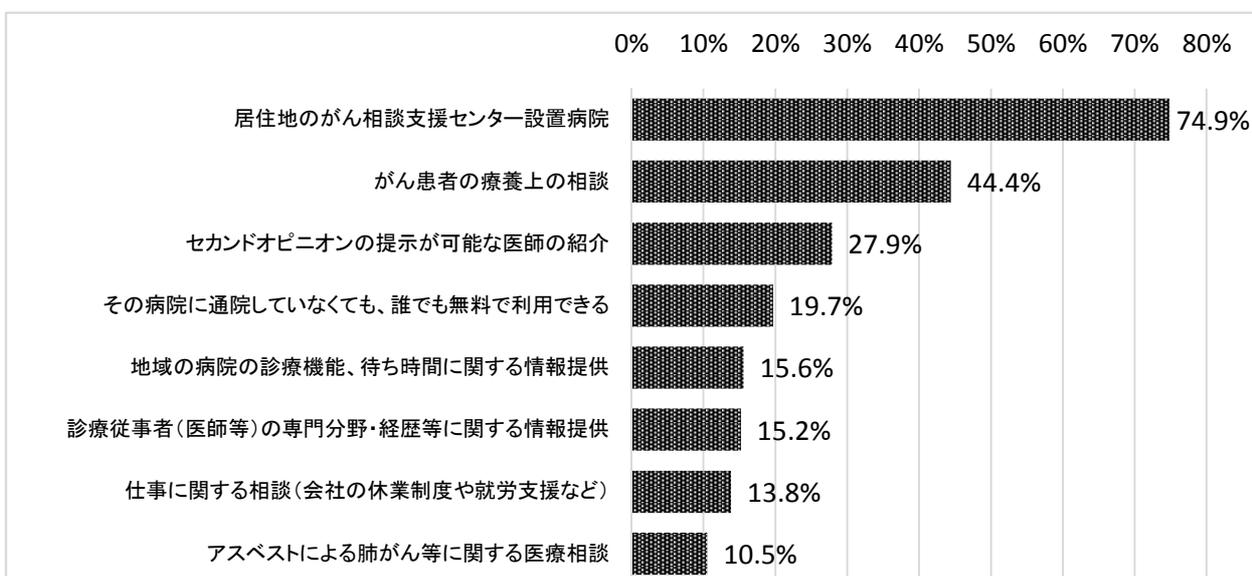
＜がん相談支援センターの機能について知っていること＞

「地域のがん相談支援センター設置病院がどこか」は7割超が知っているが、「がん患者の療養上の相談を行っていること」を知っているのは4割超

問8 問7で「①知っている」または「②聞いたことがある」を選ばれた方にお伺いします。「がん相談支援センター」について、あなたが知っていることを選んでください。(○はいくつでも)

	回答数 (人)	割合 (%)
n=513		
あなたがお住まいの地域のがん相談支援センター設置病院がどこか	384	74.9%
がん患者の療養上の相談を行っていること	228	44.4%
セカンドオピニオン(※)の提示が可能な医師の紹介を行っていること ※治療方法などについて現在の主治医以外の医師に意見を求めること	143	27.9%
その病院に通院していなくても、誰でも無料で利用できること	101	19.7%
地域の病院の診療機能、入院・外来の待ち時間に関する情報提供を行っていること	80	15.6%
診療従事者(医師等)の専門分野・経歴等に関する情報提供を行っていること	78	15.2%
仕事に関する相談(会社の休業制度や就労支援など)を行っていること	71	13.8%
アスベストによる肺がん等に関する医療相談を行っていること	54	10.5%

● 居住地のがん相談支援センターが設置されている病院を知っていると答えた割合は74.9%であったが、その他の項目は50%を下回っている。



《里親制度について》

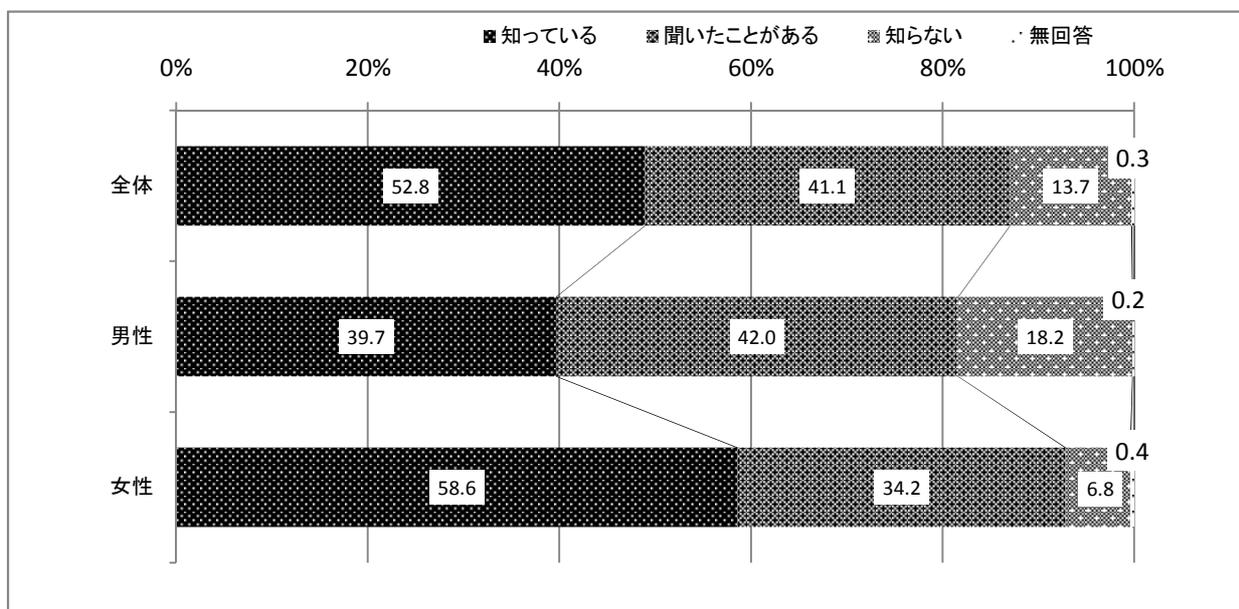
＜里親制度の認知度＞

里親制度を「知っている」が約5割、「聞いたことがある」が約4割

問9 里親制度をご存知でしたか。(○は1つ)

	回答数 (人)	割合 (%)
知っている	498	48.9%
聞いたことがある	388	38.1%
知らない	129	12.7%
無回答	3	0.3%

●全体では、「知っている」が48.9%と最も高く、「知っている」と「聞いたことがある」をあわせると9割弱となる。また、男女別では「知っている」と回答した女性の割合は58.6%、男性の割合は39.7%で、女性のほうが関心が高いことが伺える。



＜里親制度の詳細＞

里親制度を「知っている」と回答した人のうち、「養育里親、養子縁組里親といった種類があることも知っていた」、「制度があるということだけを知っていた」と回答した人が3割超

問10 問9で「①知っている」を選ばれた方にお伺いします。里親制度の詳細についてどの程度ご存知でしたか。(○は1つ)

	回答数 (人)	割合 (%)
養育里親、養子縁組里親といった種類があることも知っていた	177	35.5%
制度があるということだけを知っていた	173	34.7%
養子縁組里親は知っていたが、養育里親は知らなかった	148	29.7%

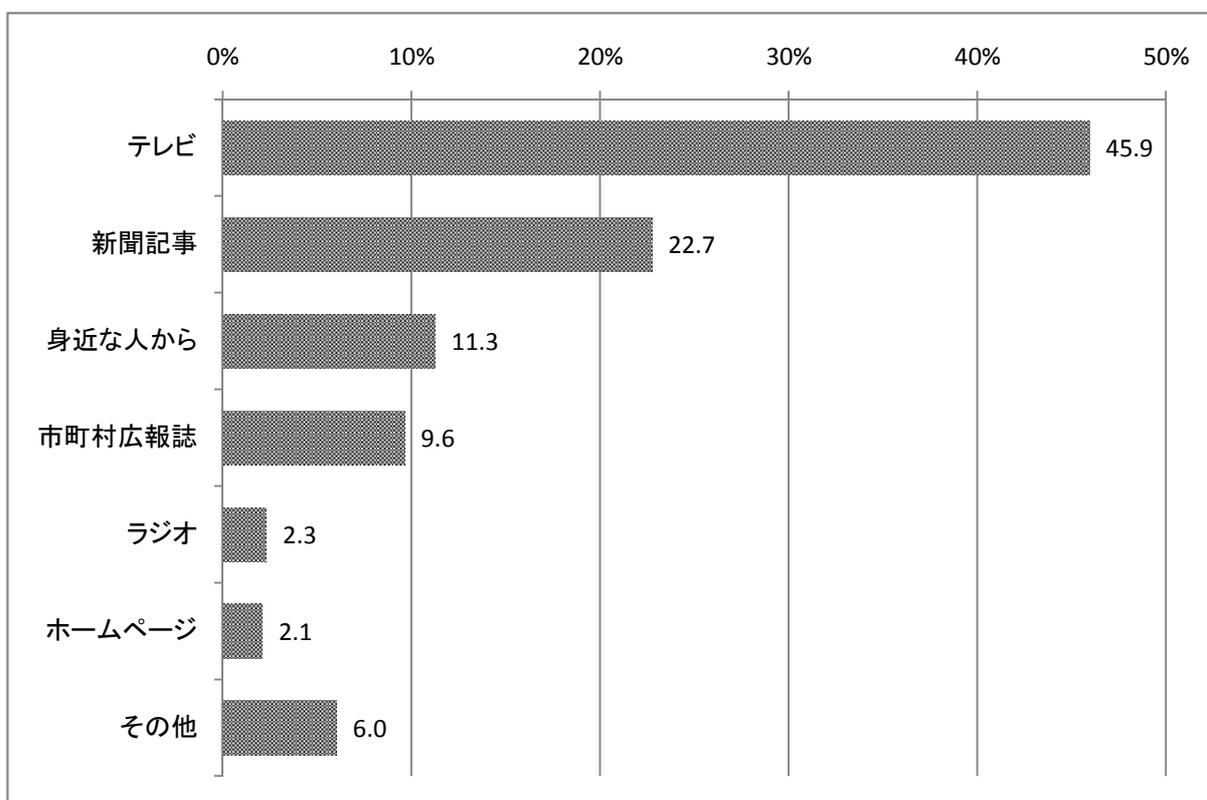
●里親制度を「知っている」と回答した人のうち、里親制度の内容まで知っている人は35.5%であり、「制度があることだけ」、「養育里親は知らなかった」と回答した人は合わせて6割を超えている。

＜里親制度をどこで知ったか＞
「テレビ」が4割超、「新聞記事」が2割超

問9で「①知っている」または「②聞いたことがある」を選ばれた方にお伺いします。里親制度
問11 をどこでお知りになりましたか。(○は1つ)

	回答数 (人)	割合 (%)
テレビ	396	45.9%
新聞記事	196	22.7%
身近な人から	97	11.3%
市町村広報誌	83	9.6%
ラジオ	20	2.3%
インターネットのホームページ	18	2.1%
その他	52	6.0%

●「テレビ」が45.9%と最も高く、次いで「新聞記事」が22.7%、「身近な人から」が11.3%となっている。



その他としては、「チラシ」、「学校の授業・研修」などの回答が見られた。

《長野県の森林・林業について》

＜森林税の認知度＞

名称、税額に加え、使い道を知っている方が3割近く、名称のみを知っている方を含めると認知度は

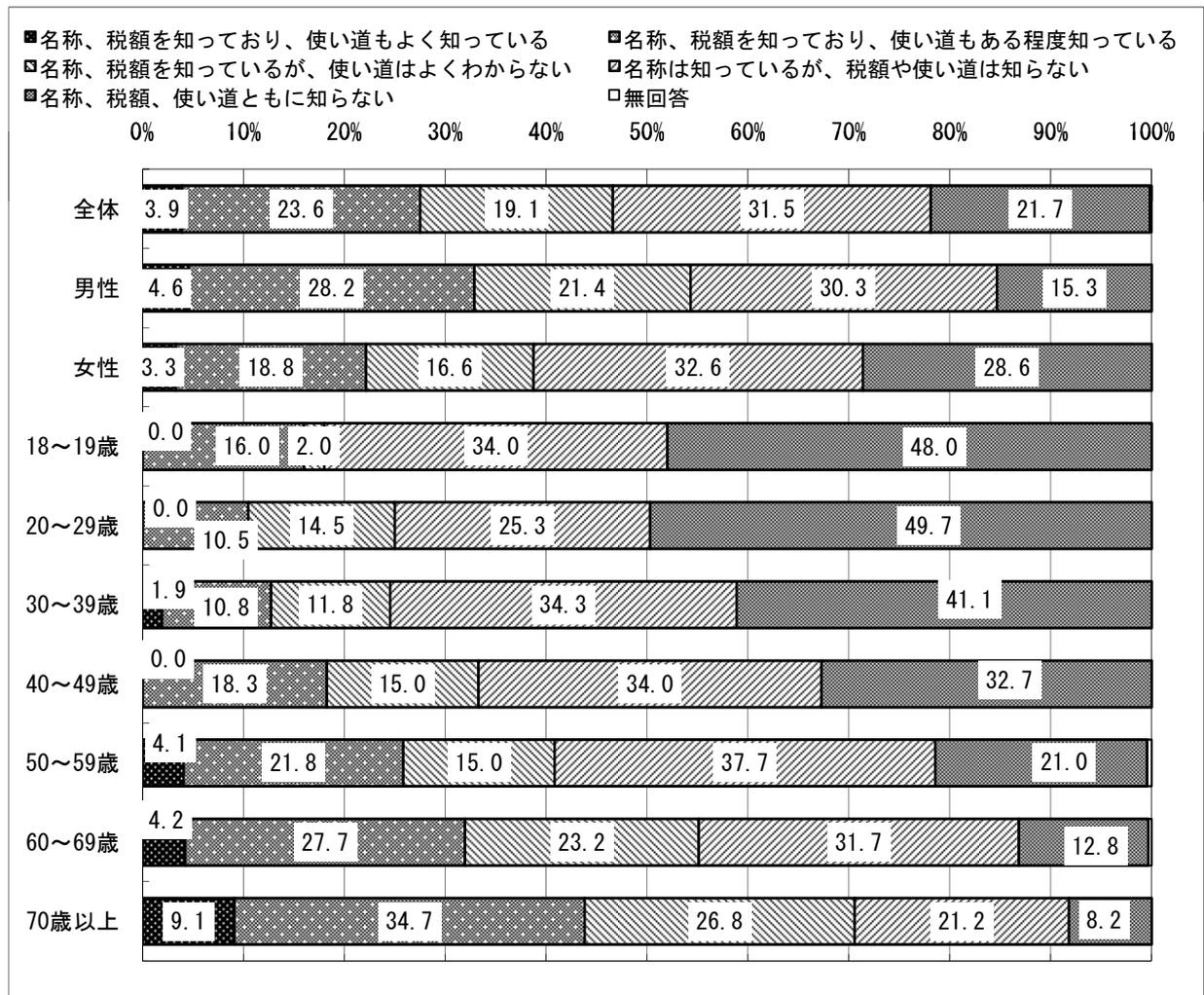
問12 県では、平成20年度から森林税を導入し、森林を健全な姿で次の世代に引き継ぐため、県民の皆様のご協力のもと、現在までの8年間(H20～H27)で約2万9千haの里山の森林整備を進めました。

以前から、森林税の名称、税額、使い道についてご存じでしたか。あてはまるものを選んでください。(○は1つ)

	平成28年度 n=1,018		(参考) 平成27年度 n=829	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
名称、税額を知っており、使い道もよく知っている	40	3.9%	81	9.8%
名称、税額を知っており、使い道もある程度知っている	240	23.6%	284	34.3%
名称、税額を知っているが、使い道はよくわからない	194	19.1%	114	13.8%
名称は知っているが、税額や使い道は知らない	321	31.5%	227	27.4%
名称、税額、使い道ともに知らない	221	21.7%	118	14.2%
無回答	2	0.2%	5	0.6%

●森林税の認知度は、税額、使い道を知らない人も含めて78.1%。

●「名称は知っているが、税額や使い道を知らない」が31.5%と最も高く、次いで「名称、税額を知っており、使い道もある程度知っている」(23.6%)、「名称、税額、使い道ともに知らない」(21.7%)と続いている。上位は、前年度と同じ3項目。



＜森林税を活用した取組を通じた「森林」に対する関心の変化＞

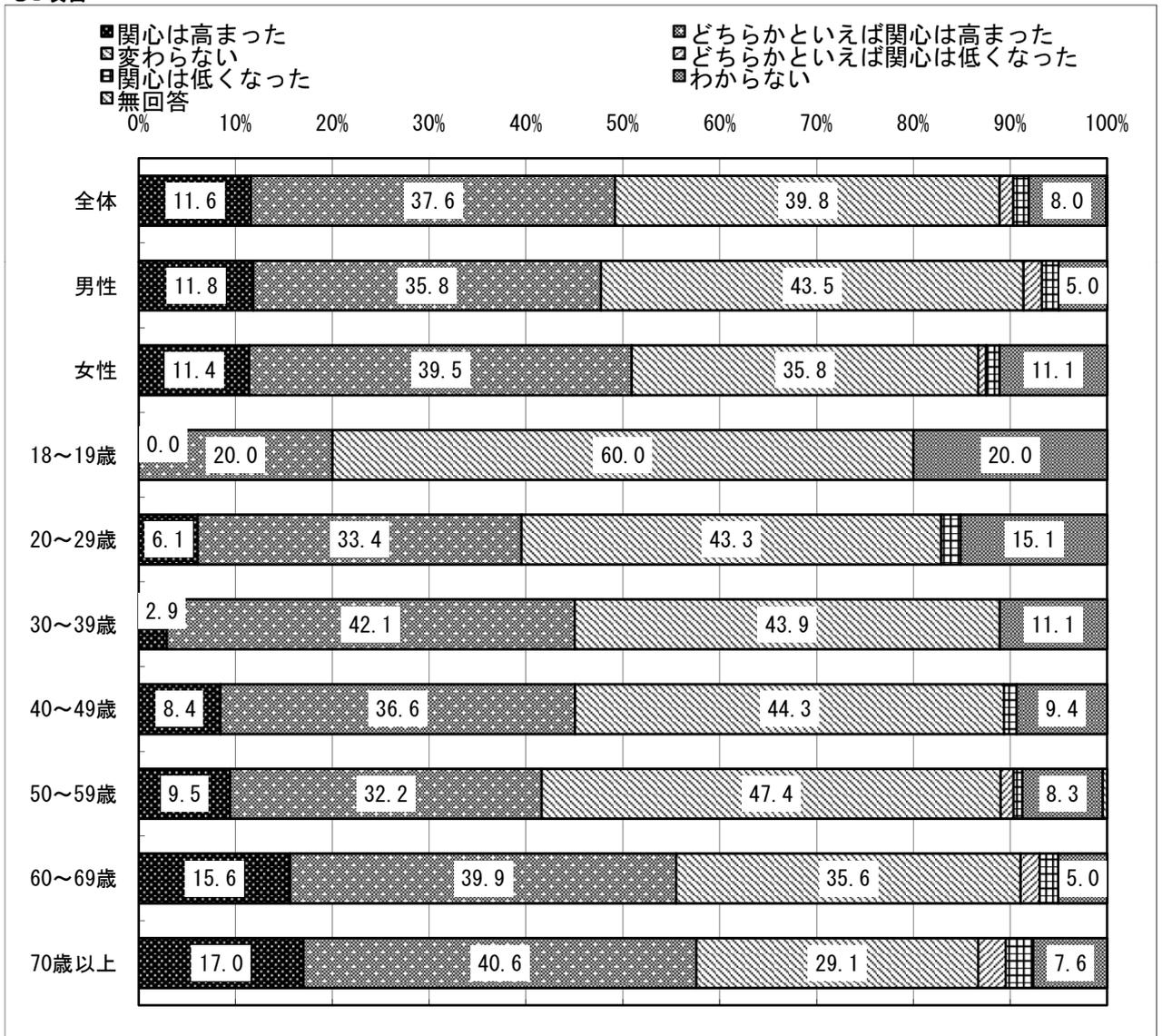
「関心は高まった」と「どちらかといえば関心は高まった」を合わせて約5割、年齢が高い方の「関心は高まった」の割合が高い傾向

問13 県では森林税活用した里山の整備の他に、地域の木材を利用を促進する取組、森林や木材について学ぶ活動(木育活動)への支援や市町村が独自に行う森林づくりの取組に対する支援等を行っています。

このような様々な取組を通じて、長野県の森林に対するあなたの関心は変化しましたか。あて

	平成28年度 n=1,018		(参考) 平成27年度 n=829	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
関心は高まった	118	11.6%	109	13.1%
どちらかといえば関心は高まった	383	37.6%	332	40.0%
変わらない	405	39.8%	253	30.5%
どちらかといえば関心は低くなった	14	1.4%	14	1.7%
関心は低くなった	16	1.6%	8	1.0%
わからない	81	8.0%	101	12.2%
無回答	1	0.1%	12	1.5%

●「変わらない」が39.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば関心は高まった」が37.6%となっている。上位は、前年度と同じ3項目



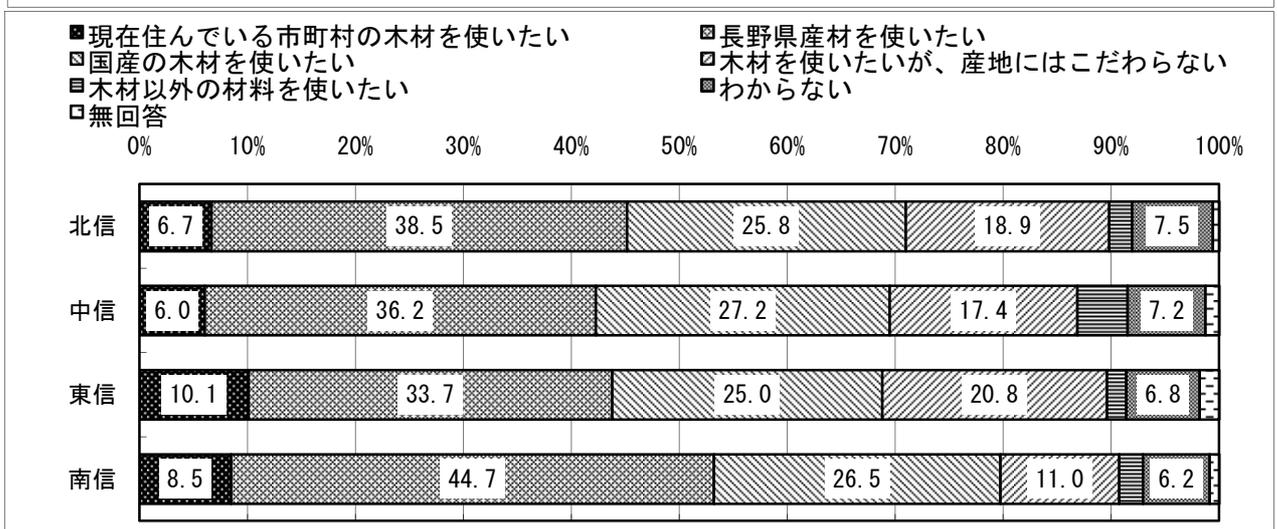
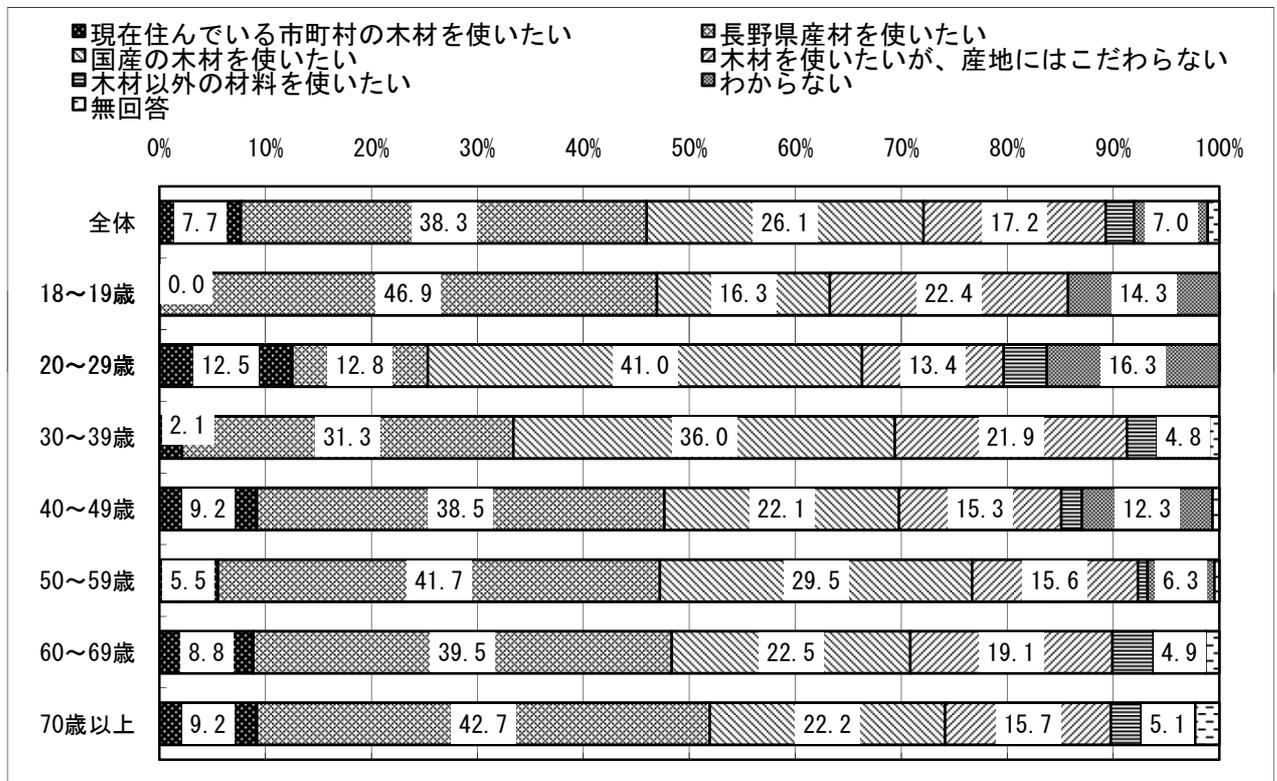
＜住宅建築及びリフォームを行う際、使用したい材の産地＞

「長野県産の木材を使いたい」が約4割、「国産材」が3割弱、「市町村産材」を及び「産地にこだわらない」を含めると約9割が木材を利用した住宅建築及びリフォームを望んでいる。

問14 長野県内の森林で生産された木材を「長野県産材」と言います。県では木造住宅の建築など、県産材を利用する取組に支援をしています。あなたが仮に住宅を建築またはリフォームをされる場合、使用する材料とその産地についてどうお考えですか。あてはまるものを選んでください。(〇は1つ)

	n=1,018	回答数 (人)	割合 (%)
現在住んでいる市町村産の木材を使いたい		78	7.7%
長野県産の木材を使いたい		390	38.3%
国産の木材を使いたい		266	26.1%
木材を使いたい、産地にはこだわらない		175	17.2%
木材以外の材料を使いたい(木造以外の建築にしたい)		27	2.7%
わからない		71	7.0%
無回答		11	1.1%

●長野県産の木材を使いたい、38.3%で最も高く、次いで国産材(26.1%)と続いている。市町村産材及び産地にこだわらないを含めると89.3%が木材を利用した住宅建築及びリフォームを望んでいる。



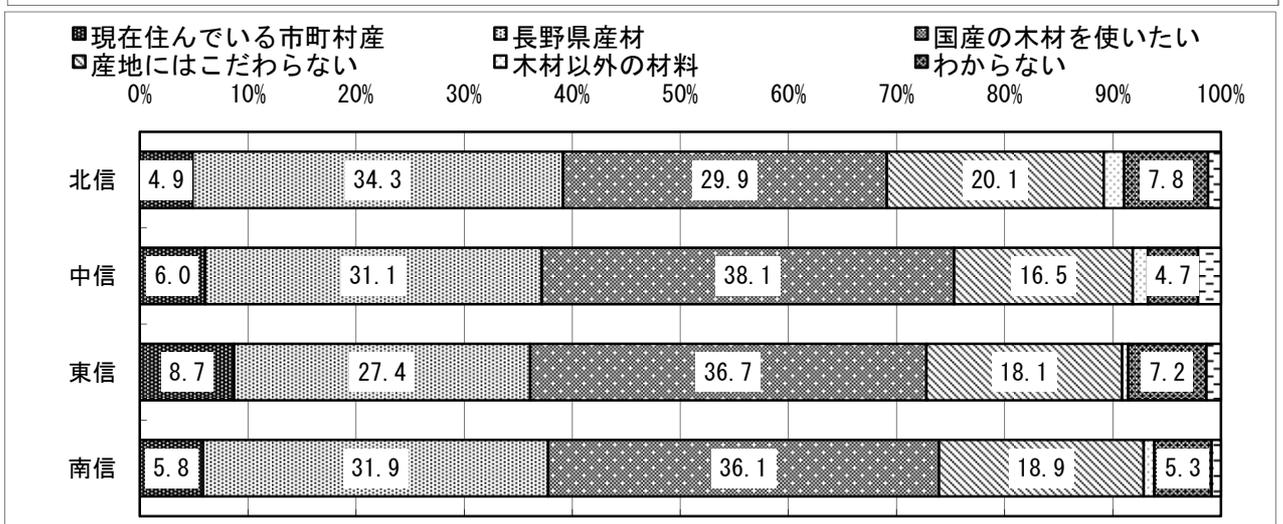
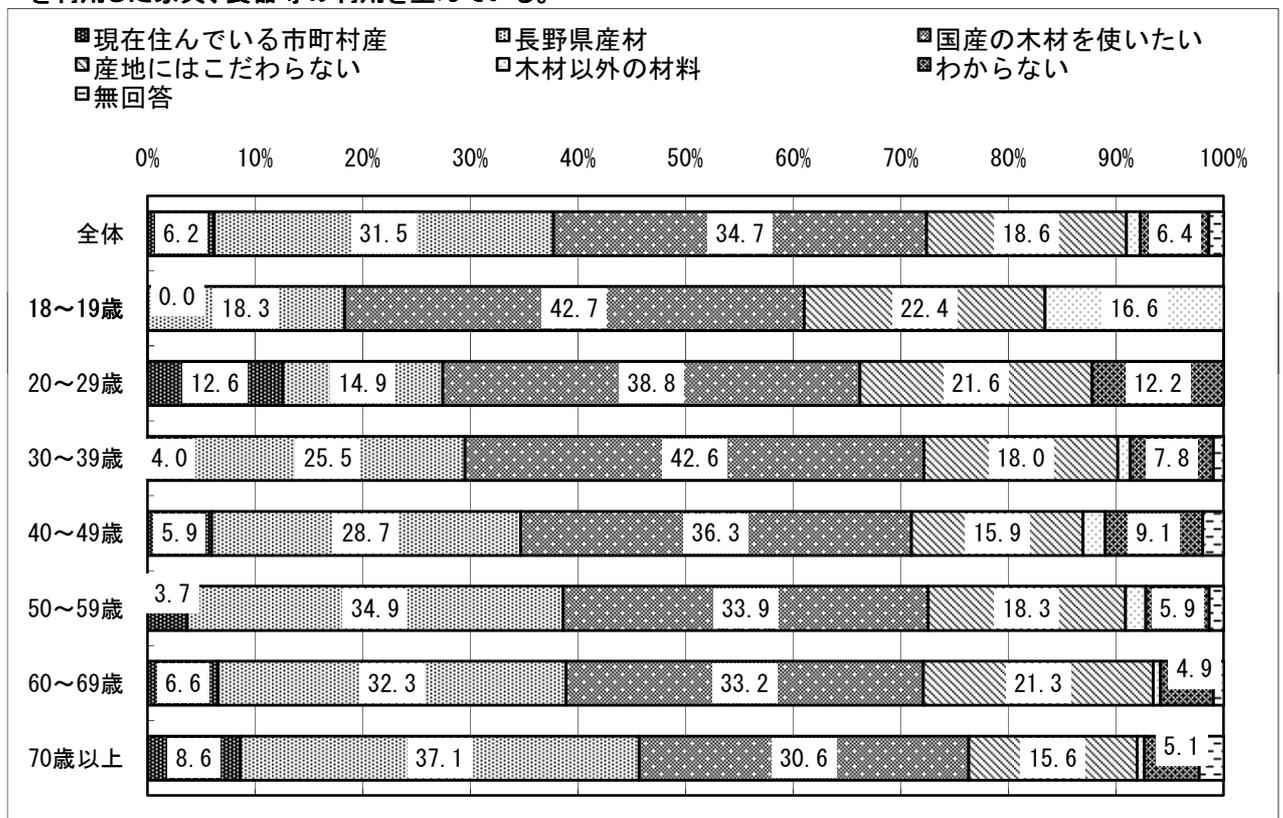
＜家具等に使用する材料の産地及び加工場所＞

「国産の木材で国内加工された製品」が3割超、「長野県産の木材で県内加工された製品」が約3割、「市町村産材」及び「産地にこだわらない」を含めると約9割が木材を利用した家具、食器等の利用を望んでいる。

問15 家具、食器等について使用する材料の産地と加工された場所をどうお考えですか。あてはまるものを選んでください。(○は1つ)

	n=1,018	回答数 (人)	割合 (%)
現在住んでいる市町村産の木材で地元で加工された製品を使いたい		63	6.2%
長野県産の木材で県内加工された製品を使いたい		321	31.5%
国産の木材で国内加工された製品を使いたい		353	34.7%
木材を使いたい、産地と加工された場所にはこだわらない		189	18.6%
木材以外の材料を使いたい		13	1.3%
わからない		65	6.4%
無回答		14	1.4%

●国産の木材で国内加工された製品を使いたい(34.7%)で最も高く、次いで長野県産の木材で県内加工された製品を使いたい(31.5%)と続いている。市町村産材及び産地にこだわらないを含めると(91.0%)が木材を利用した家具、食器等の利用を望んでいる。



《男女共同参画に関する意識について》

＜男女の地位の平等感＞

「社会全体として」では、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が合わせて8割弱

問16 次の(1)から(4)までの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたのお考えに最も近いと思うものを選んでください。(○はそれぞれ1つ)

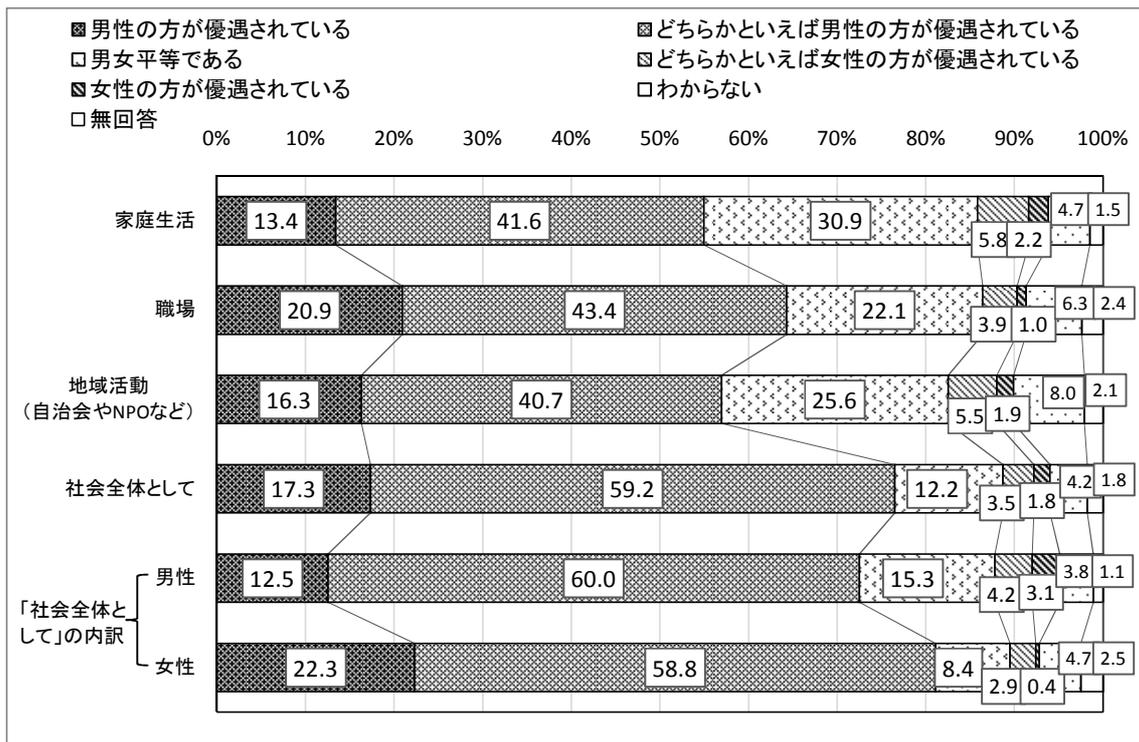
(1) 家庭生活	回答数 (人)	割合 (%)
男性の方が優遇されている	136	13.4
どちらかといえば男性の方が優遇されている	423	41.6
男女平等である	315	30.9
どちらかといえば女性の方が優遇されている	59	5.8
女性の方が優遇されている	22	2.2
わからない	48	4.7
無回答	15	1.5

(2) 職場	回答数 (人)	割合 (%)
男性の方が優遇されている	213	20.9
どちらかといえば男性の方が優遇されている	442	43.4
男女平等である	225	22.1
どちらかといえば女性の方が優遇されている	40	3.9
女性の方が優遇されている	10	1.0
わからない	64	6.3
無回答	24	2.4

(3) 地域活動の場 (自治会やNPOなど)	回答数 (人)	割合 (%)
男性の方が優遇されている	166	16.3
どちらかといえば男性の方が優遇されている	414	40.7
男女平等である	261	25.6
どちらかといえば女性の方が優遇されている	56	5.5
女性の方が優遇されている	19	1.9
わからない	81	8.0
無回答	21	2.1

(4) 社会全体として	回答数 (人)	割合 (%)
男性の方が優遇されている	176	17.3
どちらかといえば男性の方が優遇されている	603	59.2
男女平等である	124	12.2
どちらかといえば女性の方が優遇されている	36	3.5
女性の方が優遇されている	18	1.8
わからない	43	4.2
無回答	18	1.8

●社会全体では、男女の地位について、76.5%が「男性の方が優遇」されていると考えている。
男女別にみると、「男性の方が優遇」されていると考える人は、男性(72.5%)よりも女性(81.1%)に多い。



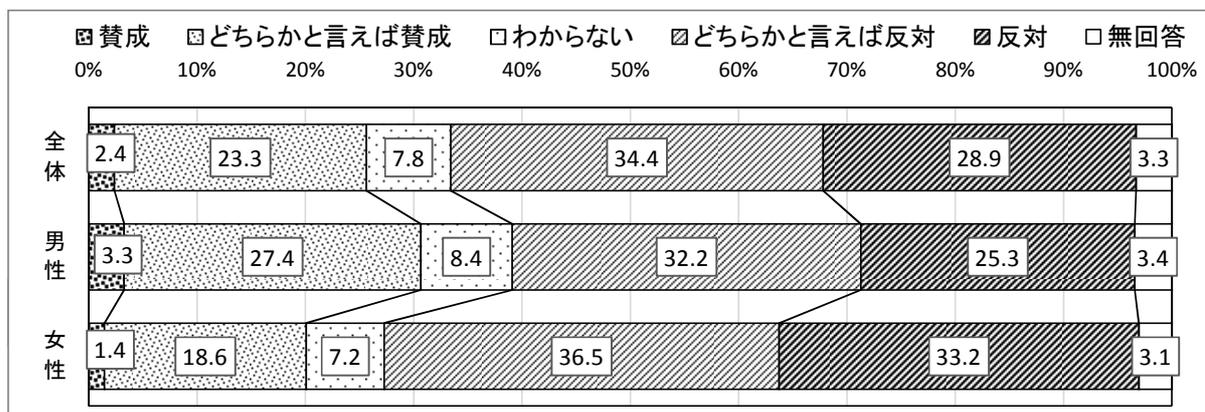
＜性別によって役割を固定する意識＞

「男は仕事、女は家庭」という考え方に、「どちらかといえば反対」、「反対」が合わせて6割超。女性に比べて男性の方が性別によって役割を固定する割合が高い。

問17 「男は仕事、女は家庭」という、性別によって役割を固定する考え方について、あなたはごどう思いますか。(○は1つ)

	H28年度 n=1,018	
	回答数(人)	割合(%)
賛成	24	2.4
どちらかといえば賛成	237	23.3
どちらかといえば反対	350	34.4
反対	294	28.9
わからない	79	7.8
無回答	34	3.3

●性別によって役割を固定する考えに「反対」または「どちらかといえば反対」する割合は、63.3%となっている。「反対」または「どちらかといえば反対」とする割合は、男性57.5%、女性69.7%で12.2ポイントの差となっている。



●年代別では、「反対」または「どちらかといえば反対」とする割合は、20代(77.1%)で最も高く、70歳以上(51.4%)で最も低くなっている。

